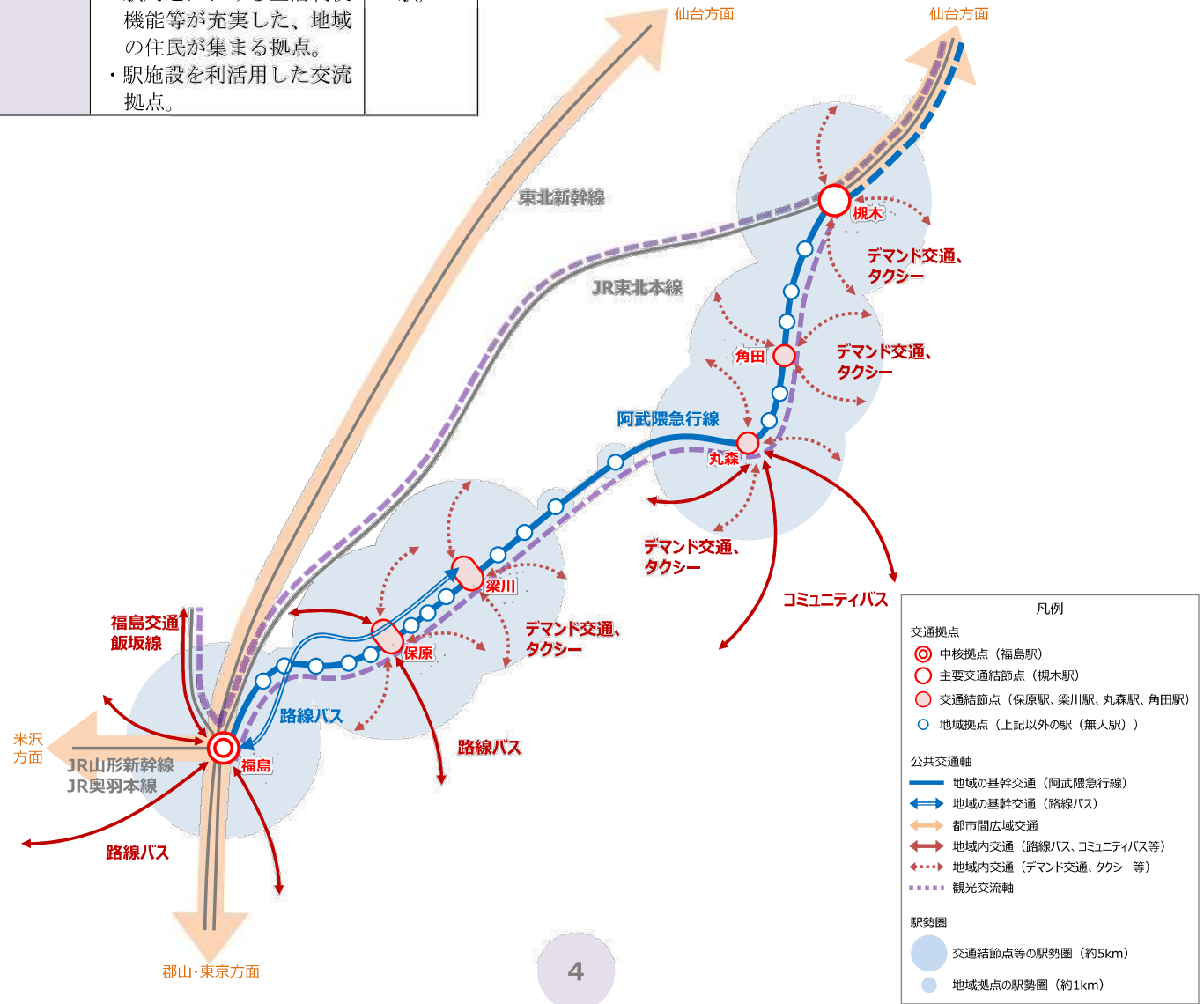


沿線地域における公共交通ネットワークの将来像

【交通拠点の位置付け】			【公共交通の機能分類】		
分類	位置付け	交通拠点	分類	機能・役割	公共交通
中核拠点	・商業、医療、教育等の都市機能が集積した沿線地域の中核となる拠点。 ・鉄道相互（JR 在来線・新幹線・福島交通飯坂線）の乗り継ぎ拠点。	・福島駅	地域の基幹交通	・交通結節点及び地域拠点から中核拠点や主要交通拠点の間、交通結節点の相互間における移動を担う。 ・基本的には、福島側地域から中核拠点への移動、宮城側地域から主要交通結節点への移動を担う。	・阿武隈急行線 ・福島駅～保原駅～梁川駅間の路線バス（福島交通）
主要交通結節点	・鉄道相互（JR 在来線の仙台方面）の乗り継ぎ拠点。	・槻木駅	都市間広域交通	・沿線地域外への移動を担う。 ・中核拠点及び主要交通結節点において阿武隈急行線と結節する。	・JR 東北新幹線 ・JR 山形新幹線 ・JR 東北本線 ・JR 奥羽本線 ・高速バス
交通結節点	・路線バス、コミュニティバス、タクシー等の地域内交通（居住地と駅、駅と目的施設などをつなぐ移動手段）と結節する乗り継ぎ拠点。 ・福島駅～保原駅～梁川駅間を並行して運行する路線バスとの接続拠点（保原駅、梁川駅）。	・保原駅 ・梁川駅 ・丸森駅 ・角田駅	地域内交通	・居住地と交通結節点の間の移動を担う。 ・交通結節点と目的施設の間の移動を担う。	・福島交通飯坂線 ・路線バス（福島交通） ・コミュニティバス ・デマンド交通 ・タクシー
地域拠点	・駐車場や駐輪場の設置等による自家用車等でアクセスしやすい拠点。 ・駅周辺における生活利便機能等が充実した、地域の住民が集まる拠点。 ・駅施設を利活用した交流拠点。	・上記以外の駅（無人駅）	観光交流軸	・沿線地域における観光等の周遊移動を担う。	・阿武隈急行線、福島交通飯坂線、JR 東北本線、路線バス、コミュニティバス、デマンド交通、タクシー



阿武隈急行線地域公共交通網形成計画【概要】

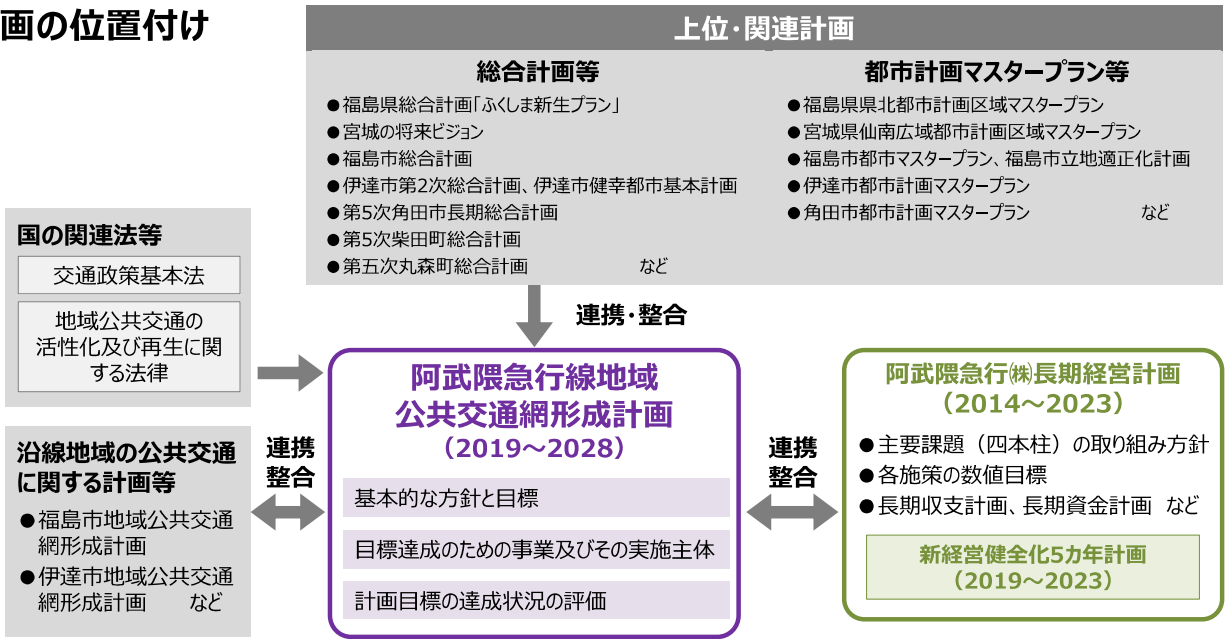
計画の目的

本計画は、阿武隈急行線の具体的な運行実績や利用実態を把握するとともに、利用者ニーズ及び阿武隈急行を取り巻く課題を明らかにし、阿武隈急行線の運行継続の実現のための施策や利活用策を検討するとともに、2014 年 11 月改正の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の趣旨に鑑み、まちづくりや観光振興等の地域戦略との一体性を確保し、阿武隈急行線沿線全体の、地域にとって望ましい持続可能な公共交通網の形成を目指して、地域、交通事業者及び行政等が果たす役割を定めるものとする。

計画の役割

- ①阿武隈急行線沿線地域の“広域的”な地域公共交通のマスタープランとして、地域にとって望ましい公共交通ネットワークの姿を明らかにする（ビジョン及び施策体系）
- ②阿武隈急行の持続可能な経営に資する
- ③阿武隈急行線沿線地域のまちづくり（都市計画、商業、観光振興など）の取り組みとの一体性を確保する
- ④地域特性に応じた多様な交通サービスによるネットワーク構築を目指す
- ⑤地域・企業など多様な関係者との連携を促進する
- ⑥具体的な数値目標とPDCAサイクルにより、計画の達成に向けた継続的な改善を推進する

計画の位置付け



計画の区域：福島市・伊達市・角田市・柴田町・丸森町の阿武隈急行線沿線地域

計画の期間：2019 年度から 2028 年度までの 10 年間

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029以降
阿武隈急行(株)長期経営計画	長期経営計画（2014～2023）					次期長期経営計画（2024～2033）					
	5カ年計画（2019～2023）					次期5カ年計画（2024～2028）					
阿武隈急行線地域公共交通網形成計画	前期（2019～2023）					後期（2024～2028）					

阿武隈急行線地域 公共交通の課題

沿線地域の現状にみる課題

- 沿線地域における公共交通利用者の確保
- 交通弱者の移動手段の確保・利用環境整備
- 市町間の広域的移動を支える公共交通ネットワークの確保
- 駅から沿線の生活利便施設への交通手段の確保
- 観光需要の掘り起こし、観光施設への移動手段の確保
- 沿線のまちづくりとの連携、駅を中心とした拠点機能の向上

沿線地域の公共交通の現状にみる課題

- 交通結節点としての拠点駅の機能強化
- 駅に接続する公共交通手段の確保
- 阿武隈急行線と路線バスの一部運行区間の重複
- 公共交通を取り巻く事業環境の維持・確保

阿武隈急行線の現状・ニーズにみる課題

- 阿武隈急行線の年間輸送人員の維持
- 日中利用・観光利用の拡大
- 利用者ニーズに合わせたサービスの提供
- 阿武隈急行(株)の運行維持

課題への 対応の方向性

方向性① 沿線地域の生活を支える地域公共交通の構築

- 通勤・通学的手段として地域公共交通の維持
- 交通弱者の生活の足としての地域公共交通の維持

方向性② 沿線地域全体の移動を支えるための一体的ネットワークの構築

- 他の鉄道と連携した交通サービスの提供
- 駅に接続する公共交通と連携した交通サービスの提供
- 並行して運行する公共交通の整理による持続可能な公共交通網の構築
- 拠点駅の機能強化による利便性の向上

方向性③ 沿線地域のまちづくりとの連携

- 沿線の居住・都市機能誘導や観光振興等、沿線地域のまちづくりとの連携
- まちづくりとの連携によるコミュニティ拠点としての駅の利活用

方向性④ 公共交通利用者の維持・拡大

- 利用者のニーズに応じたサービスの見直し
- 通勤・通学利用者以外の利用者の拡大
- 観光需要の掘り起こしや二次交通の整備による観光利用者の拡大

方向性⑤ 行政・交通事業者・地域住民等の連携

- 行政・交通事業者・地域（住民・企業・施設等）との連携による公共交通の維持・利用促進

方向性⑥ 安全・快適な公共交通

- 鉄道施設の老朽化設備の計画的な整備・更新の実施
- 車内・待合場所等の快適な環境づくり

方向性⑦ 阿武隈急行線の持続的な運営・運行体制の構築

- 持続的経営体制構築のための経営改善
- 新たな収入確保や沿線自治体による持続可能な支援スキームの構築

基本的な方針と目標

生活と交流に欠かせない基幹インフラとして、「地域と共にあり」「地域をつなぐ」公共交通ネットワークの構築を目指す

基本方針 1 鉄道を軸とした沿線地域の一体的な交通ネットワークの形成

目標 1：阿武隈急行線とバス交通等の一体的なネットワーク構築とサービス提供

基本方針 2 鉄道沿線の交通まちづくりの推進

目標 2：駅を中心としたまちづくりの推進

目標 3：生活やコミュニティ拠点としての場の提供

基本方針 3 多様な関係者との連携による公共交通の利用促進

目標 4：利用ニーズに対応したサービスの提供

目標 5：沿線企業・施設等との連携による公共交通の利用拡大

目標 6：交流人口拡大のための沿線地域の魅力創出

基本方針 4 安全・安心で持続可能な地域公共交通の構築

目標 7：阿武隈急行線の安全な運行の確保

目標 8：阿武隈急行(株)の経営改善

重点施策

阿武隈急行線の持続的な運行・運営のために、特に優先的かつパッケージで取り組むべき事業

重点施策① 阿武隈急行線の利用人員及び収入の維持・拡大

指標①：阿武隈急行線の利用者数

重点施策② 持続可能な鉄道事業基盤の確保

指標②：阿武隈急行線の「運送費」に対する「鉄道事業営業収益」の割合

目標達成のための事業及びその実施主体、スケジュール

目 標	事 業	実施主体						実施時期										
		阿武隈急行(株)	他の鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	県・市・町	地域団体・住民	民間事業者	前 期					後 期				
									2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
目 標 1	沿線地域公共交通の路線再編	●		●		●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	駅の案内表示・広報方法の改善	●				●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	阿武隈急行線を基軸とした一体的交通サービスの提供（地域 MaaS の展開）	●		●	●	●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
目 標 2	駅周辺におけるイベント・行催事等との連携	●				●	●		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	駅周辺における居住・都市環境整備の推進					●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	駅周辺における企業・工業団地等の開発促進					●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
目 標 3	駅における生活拠点づくり	●				●	●	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	地域と連携した駅等の美化活動	●				●	●		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
目 標 4	利用ニーズに応じたダイヤの見直し	●							→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	乗り継ぎ方法の案内強化・改善	●							→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	JR 等との連携	●				●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
目 標 5	駅の駐車場の運用改善・整備	●				●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	沿線企業や大学等と連携したモビリティマネジメント	●				●	●	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	高齢者等の利用促進	●				●	●	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
目 標 6	鉄道自体の魅力向上	●				●	●		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	情報発信の強化	●				●	●		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
目 標 7	沿線観光資源を活用した需要開発	●				●	●	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	老朽施設（車両等）の更新	●				●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
目 標 8	駅・待合施設の環境改善	●				●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	旅客運賃以外の収入確保	●				●		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
目 標 8	鉄道事業基盤の強化	●				●			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→